

SGEPSS におけるアウトリーチ・教育普及活動と男女共同参画活動について

地球電磁気・地球惑星圏学会アウトリーチ部会 畠山 唯達 [1]; 地球電磁気・地球惑星圏学会男女共同参画提言ワーキンググループ 長妻 努 [1]; 尾花 由紀 [2]; 坂野井 和代 [3]
[1] -; [2] 大阪電通大・工・基礎理工; [3] 駒澤大学

Outreach Activities and Actions for Gender Equality in SGEPSS

Hatakeyama Tadahiro Outreach Working Group, SGEPSS[1]; Nagatsuma Tsutomu Gender Equality Working Group, SGEPSS[1]; Yuki Obana[2]; Kazuyo Sakanoi[3]
[1] -; [2] Engineering Science, Osaka Electro-Communication Univ.; [3] Komazawa Univ.

<http://www.sgepss.org/outreach/>

Here we report the activities in SGEPSS for outreach, education and enlightenment, gender equality, and others, and will discuss future works on those activities and relationship to the problems in postdoctoral workings.

本講演では、SGEPSS 内部で行われてきたアウトリーチ活動・教育普及活動、男女共同参画活動等についてこれまでの取り組みについて報告し、今後の展開やいわゆるポストドク問題との関連についても議論したい。

SGEPSS では 2004 年にアウトリーチ活動のためのグループとして、アウトリーチ部会を、男女共同参画に関する活動のために男女共同参画提言 WG を立ち上げ、これまでさまざまな活動を行ってきた。

アウトリーチ部会の活動としては、(1) 毎年秋学会に合わせて一般および小中高生を対象としたアウトリーチイベントの開催、(2) 学会員を講演会や出前授業などの講師として派遣する講師派遣プロジェクト、(3) 学会が扱う研究対象を中学高校生向けに紹介するアウトリーチ Web の製作、(4) 秋学会の発表の中で特筆すべき数本の論文を紹介する記者発表、(5) 高校生～大学院生を対象とした「衛星設計コンテスト」の開催協力 (6) 若手による出前授業 STEPLe、等である。

また、アウトリーチ部会とは別に「学校教育ワーキンググループ」を組織して、小中高校での SGEPSS 関連分野の取り上げられ方や教育に関してコミットしてきた。その結果として主に高校教員を対象として学会研究分野を解説する「太陽地球系科学」(京都大学学術出版会, 2010) を出版した。

SGEPSS が取り扱う諸問題は特に電磁気現象が多いため、一般の方々や小中高生には「難しい」と思われがちである。また、SGEPSS は学会として所帯が小さいため、普及活動を行うためのマンパワーを確保し実行することが難しい。実際、現在のアウトリーチ部会ではここ数年はアウトリーチイベントに注力してきたため、他の活動が困難になってきた。しかし、昨年からは学会の若手 (PD、大学院生) 有志が新たにグループ (STEPLe) を立ち上げ、自分たちの母校などを中心とした中高生に対して働きかけを始めたのは大きな前進であろう。

男女共同参画提言 WG の活動としては、(1) 男女共同参画学協会連絡会の活動への参加、及び連絡会の実施する調査活動 (アンケート調査等) への協力、(2) 地球惑星科学連合男女共同参画委員会の活動への協力、(3) ポスドク問題に対する独自のアンケート調査の実施、(4) 「女子中高生夏の学校」活動への参加・協力、(5) 秋学会において参加会員のための保育室の運営・利用料金の補助、等である。

当初は男女共同参画の推進を目的として開始した WG 活動であったが、ポストドク問題などのキャリアパス問題に対する取り組みへの強い要望を受け、これらに関する活動も行った。しかしながら、男女共同参画及びキャリアパス問題は、まだ解決には程遠い状況である。ポストドク一人支援計画の開始から十六年が経過し、多くのポストドクが育ってきたが、その間大学等では新規採用の抑制圧力が高まる一方で、むしろ年々深刻化しているとも言える。また、性別、任期の有無だけでなく、国際化、勤務形態の多様化が進展する中で今後コミュニティが直面するであろう新しい問題への取り組みも急務である。今後は、ダイバーシティ & インクルージョンの推進をキーワードとして、多様な個をいかしつつ、学会組織として一体感を持って、新しい価値や成果を生み出しやすい環境作りを目指して、取り組みを強化していく必要があると考えている。